

次期最終処分場処理方式等比較検討業務委託プロポーザル評価基準

1. 趣旨

本評価基準は、次期最終処分場処理方式等比較検討業務委託プロポーザル実施要領に基づき、評価点の算出方法及び委託候補者の選定方法を示すものである。

2. 評価方法

- (1) 候補者の特定は、評価基準に基づいて技術提案書等の提案内容とプレゼンテーション・ヒアリングに対して審査を行い、次期最終処分場処理方式等比較検討業務委託プロポーザル審査委員会(以下「審査委員会」という。)において、最優秀者及び次点者を特定する。
- (2) 審査は、評価項目ごとに提出された書類(参加表明書等)の内容、技術提案書の内容及び技術提案書に対するヒアリングの結果をもとに各委員が評価を行う。
- (3) 審査の評価点の順位が1位の候補者を最優秀者、2位を次点者とする。
- (4) 合計評価点と同じ場合は、技術提案及びヒアリングの評価点が高い者を上位とする。それも同じ場合は、審査委員会にて判断し決定する。

3. 提出された書類の評価

提出された参加表明書等をもとに次の項目を評価する。

評価項目	評価の着目点		評価点		
		判断基準		小計	
参加者の評価	技術職員（有資格）数	技術職員の有資格数を評価する。	5.0	10.0	
	同種・類似業務実績	実績の種類、件数、について評価する。	5.0		
配置技術者の技術力	同種又は類似業務の実績（実績の有無及び件数、携わった立場）	以下の順で評価する。 ①同種業務、②類似業務の実績の有無について評価する。	管理技術者	5.0	15.0
			照査技術者	5.0	
			主任担当技術者	5.0	
合 計			25.0		

※ 同種・類似業務の判断については、プロポーザル審査委員会にて判断する。

(1) 参加者の評価

ア 技術職員数及び有資格者数の評価

有資格者数【5点】

有資格者数の評価は下記による。

※ 有資格者は、技術士（衛生工学部門）の有資格者数とする。

有資格者数（人）	評価点
20～	5.0
15～19	4.0
10～14	3.0
5～9	2.0
～4	1.0

イ 同種又は類似業務の実績【5点】

同種及び類似業務の実績5件について評価を行う。実績一件につき基礎配点を1点として評価する。

実績	区分係数
同種業務	1.0
類似業務	0.8

(2) 配置技術者の技術力

配置技術者の同種又は類似業務の実績について評価を行う。

過去の実績5件について、配置技術者1件あたり下記の基礎配点として、実績ごとに業務の携わった立場に応じた「担当係数」を乗じたものの合計とする。

なお、同種又は類似業務の実績がない場合は0点とする。

配置技術者1件あたりの基礎配点

配置技術者区分と基礎配点			
管理技術者	照査技術者	主担当技術者	その他担当者
1.0	1.0	0.8	0.5

4. 技術提案書及びプレゼンテーションの評価

提出された技術提案書、プレゼンテーション及びヒアリングの内容について、次の項目を評価する。

評価項目	評価の着目点		評価点	
		判断基準		小計
業務実施方針	業務の理解度及び取組意欲	業務内容、業務背景、手続の理解が高く、積極性がみられる場合に評価する。	15.0	15.0
技術提案	テーマ1	各テーマに対して、その的確性(与条件との整合性が取れているか等)、専門性(工学的知見に基づく独創的な提案がされているか等)、実現性(提案内容が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか等)を考慮して総合的に評価する。	30.0	60.0
	テーマ2		30.0	
ヒアリング	提案説明	専門技術力、質問対応の応答性、本業務への取組み意欲	15.0	15.0
合 計			90.0	

(1) 業務実施方針

下表により5段階で評価する。

評価の着目点	判断基準	評 価 点				
		非常に優れている	優れている	やや優れている	一部が優れている	標準を満たす程度
業務への取組方針及び取組意欲	取組み意欲の高さや積極性、発注者を支援する姿勢、業務への工夫、配慮	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0
業務への取組体制	担当チームの特徴及び技術力、工程計画の工夫や協力体制、業務分担体制等	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0
業務上特に配慮する事項	業務内容、業務の背景や課題等の理解度、総合的見地からの考え方の適格性	5.0	4.0	3.0	2.0	1.0

(2) 評価テーマに対する技術提案

以下の3点について、下表より5段階で評価する。

的確性：与条件との整合や求めた課題が正しく理解され、的確な提案がなされているか。

専門性：衛生工学の廃棄物部門に関する専門的な提案がなされているか。

実現性：提案が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか。

評価の着目点	判断基準	評価点				
		非常に優れている	優れている	やや優れている	一部が優れている	標準を満たす程度
テーマ1	的確性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0
	専門性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0
	実現性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0
テーマ2	的確性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0
	専門性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0
	実現性	10.0	8.0	6.0	4.0	2.0

(3) ヒアリング

下表により5段階で評価する。

非常に優れている	優れている	やや優れている	一部が優れている	標準を満たす程度
15.0	12.0	9.0	6.0	3.0

(4) 見積評価点

各技術提案者から提出された参考見積書を担当課にて次の算定式により点数化し評価する。(小数点第2以下を切り捨てとする。)

$$\text{見積評価点} = 25.0 \times \text{最低参考見積金額} \div \text{当該事業者の参考見積金額}$$